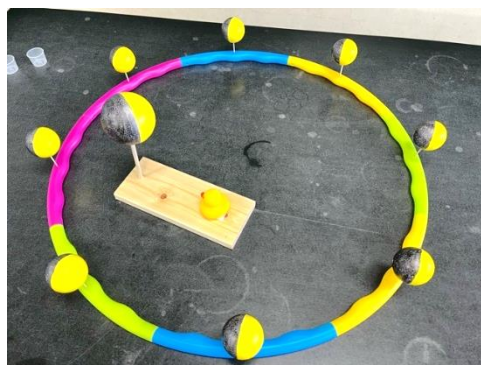




空間的に学ぶ難しさを手づくり教材で克服せよ!



9月に入って市内5校のCST（コア・サイエンス・ティーチャー）が集まって2学期の活動内容を協議しました。そのときに情報共有をし、月の学習で活用できるとてもよい教材を教えてくださいました。フラフープに球形のボールを棒で差し込んだものです。材料は全て100円ショップで購入できるものばかりです。（上段が長浜北小の先生作製・下段が森田作製）



フラフープ

発泡スチロール

ピン球

板と棒

作り方は、8つのボールに色を塗り、つまようじでフラフープに差し込みます。これだけです。そして、大きなボールは、月の実際の見え方が一目で分かるものです。月

を見る方向にうさぎの視点を合わし、ボールの向きを同じにすると、実際に見ている月の形になります。これが授業中に大ヒットです。そして、子どもたちにはこちらを作ってもらいました。常に手元に月の形が分かる教材「えんぴ月」です。発泡スチロール球に色を塗って鉛筆に刺すだけ。これをコロコロ回転させるだけで、月の形が全て再現できます。筆箱に入れて毎時間活用しています。



<月の見え方再現実験>

理科室のカーテンを閉め切り、スポットライトを使って月の見え方を再現しました。月のクレーターやでこぼこを忠実に再現した「ムーンライト」という商品名のインテリアグッズを使っています。太陽の代わりにライトを持つ子、月の代わりにボールを持つ子、地球の代わりはタブレットのカメラです。みんなで協力しながら、それぞれの月の見え方を再現しました。



明け方、東の空の月

正午、南の空の月（新月）

真夜中、南の空の月（満月）

